

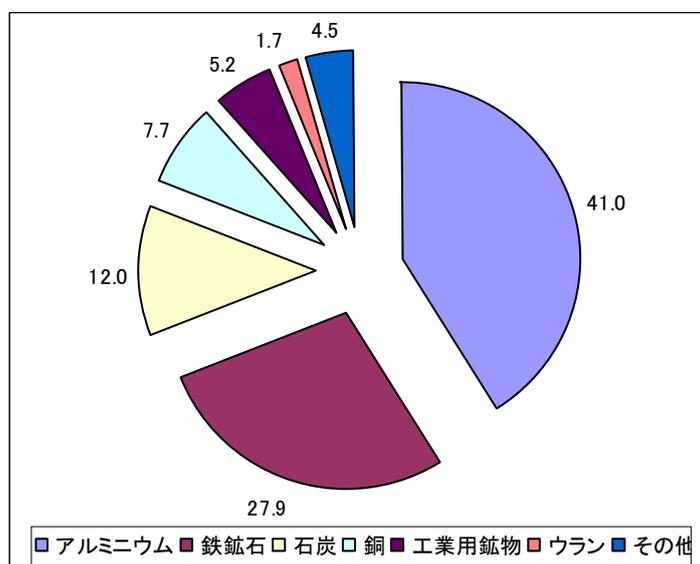
中国の大手石炭会社：世界の石炭会社との対比（2）

エイジウム研究所 上席研究員 木村 徹

前回述べたように、世界の大手石炭会社 10 社のうち、インド石炭公社（CIL）（生産量で 1 位）、アメリカの Peabody（3 位）および Arch（5 位）、ロシアの SUEK（9 位）は、中国の神華集団（2 位）および中煤集団（7 位）に近い“石炭専業型”かつ“国内事業型”の企業であるのに対して、Rio Tinto（4 位）、BHP Billiton（6 位）、Anglo American（8 位）および Xtrata（10 位）は“多事業型”かつ“多国籍国際貿易型”の企業である。

Rio Tinto

2008 年における Rio Tinto の総収入（gross revenue）の中では、「アルミニウム」が全体の 41%、「鉄鉱石」が 28%を占めているが、「石炭」は 12%で、これらに次いでいる。同社において「石炭」より比重が小さいのは「工業用鉱物」、「ウラン」などである（図 1。図中の数字の単位は%。以下、同じ）。



(出所) 同社年次報告

図 1. Rio Tinto における総収入の内訳（2008 年）

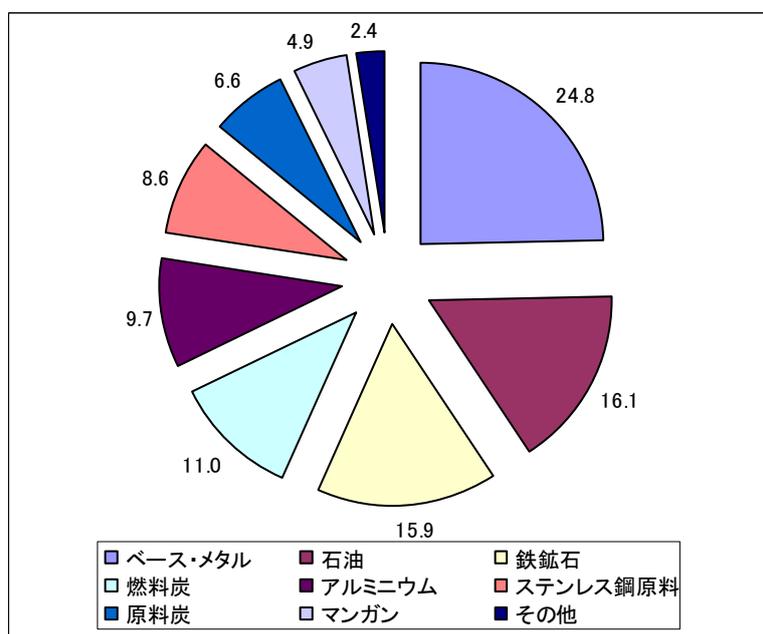
同社の 2008 年における石炭生産量、1 億 6,053 万トンのうち、1 億 3,075 万トンはアメリカで、また、残りの 2,978 万トンはオーストラリアで生産されている。しかし、同社が生産

する石炭の仕向け先は公表されていない。

そこで、上に述べた総収入の仕向け先別割合を見ると、ヨーロッパ 24.3%、北米 22.4%、中国 18.6%、日本 15.2%、その他アジア 11.3%、オーストラリアおよびニュージーランド 3.2%、その他 5.0%である（2008 年。同社の“2008 Full Financial Statements”による）。これらの数字から、同社が生産する石炭——特にオーストラリアで生産されるもの——は、その多くが生産地以外の国へ向けられていることがうかがえる。

BHP Billiton

BHP Billiton が生産している品目は Rio Tinto よりもさらに多い。同社の 2008 年における収入 (revenues) は 9 つの部門 (Customer Sector Group と呼ばれる) について示されている。全体に占める割合が最も大きいのは「ベース・メタル (銅、鉛、亜鉛、ウランなど)」部門で 25%、これに「石油」部門と「鉄鉱石」部門の各 16%が続いている。さらに、これらに続くのが「燃料炭 (一般炭)」部門の 11%であり、「原料炭」部門の 7%と合わせると、石炭は同社の収入の 18%を占めている (図 2)。



(出所) 同社年次報告

図 2. BHP Billiton における収入の内訳 (2008 年)

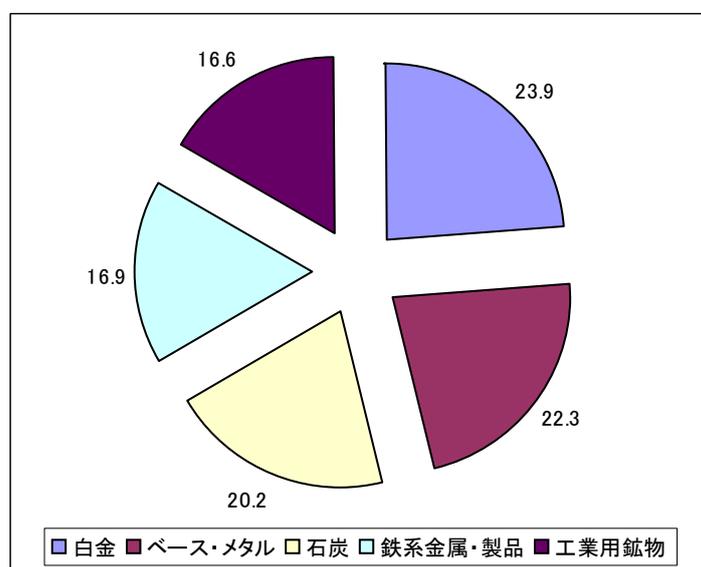
同社の 2008 年における石炭生産量 (1 億 1,606 万トン) のうち、原料炭 (3,519 万トン) は全てオーストラリアで生産されているが、燃料炭 (8,087 万トン) のうち、1,365 万トン

はアメリカ、1,130 万トン、南アフリカ、さらに、1,037 万トンはコロンビアで生産されている。Rio Tinto と同様、これら石炭の仕向け先は公表されていないが、南アフリカ炭についてのみ、396 万トンは輸出向け、730 万トンは国内向けである、と説明されている。

因みに、上述の収入の仕向け先別割合を見ると、ヨーロッパ 24.1%、中国 19.6%、日本 11.6%、その他アジア 10.8%、オーストラリア 9.8%、北米 8.0%、韓国 6.2%、南米 4.4%、アフリカ南部 3.4%、その他 2.0%である（2008 年。同社の“Annual Report”による）。ここでも、Rio Tinto と同様、BHP Billiton が生産する石炭——特にオーストラリア、南アフリカおよびコロンビアで生産されるもの——は、その多くが生産地以外の国へ向けられていることがうかがえる。

Anglo American

Anglo American の収入は 5 つの事業部門について発表されている。最大の「白金（プラチナ）」部門が全体の 24%、「ベース・メタル（主に銅、その他にはニッケル、亜鉛など）」部門が 22%を占め、これらに続いて、「石炭」部門が 20%と、それぞれ 17%の「鉄系金属・製品」および「工業用鉱物」の両部門を上回っている（図 3）。



(出所) 同社年次報告

図 3. Anglo American における収入の内訳 (2008 年)

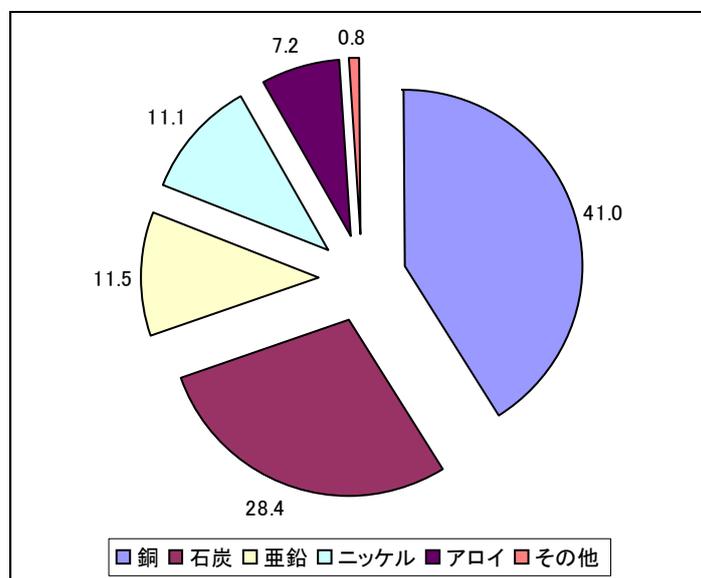
同社の 2008 年における石炭生産量 (9,951 万トン) の生産国別内訳は、南アフリカ (5,942 万トン)、オーストラリア (2,784 万トン)、南米 (1,148 万トン)、カナダ (77 万トン) であ

る。上述の 2 社と同様、これら石炭の仕向け先は公表されていない。

因みに、上述の 2 社と同じように、同社の収入の仕向け先別割合を見ると、ヨーロッパ 37.9%、オーストラリアおよびアジア 33.6%、南アフリカ 11.4%、南米 11.1%、北米 5.6%、その他 0.4%である（2008 年。同社の“Annual Report”による。子会社および合弁会社による収入で、その他関連会社の収入を除く）。上述の 2 社と同様、Anglo American が生産する石炭——特に南アフリカ、オーストラリアおよび南米で生産されるもの——は、その多くが生産地以外の国へ向けられているであろう。

Xtrata

Xtrata は 6 つの事業部門について収入を発表しているが、それらのうち「銅」部門が 41%と、Rio Tinto における「アルミニウム」と同じように、非常に大きな割合を占めている。次いで、「石炭」部門が 28%を占め、他の会社における比重をかなり上回っていることは Xtrata の収入構成の特徴である。これらに続いているのは、「亜鉛」部門の 12%、「ニッケル」部門の 11%、さらに、「アロイ（フェロクロム、フェロバナジウム、プラチナなど）」部門の 7%である（図 4）。



(出所) 同社年次報告

図 4. Xtrata における収入の内訳 (2008 年)

同社の 2008 年における石炭生産量 (8,550 万トン) の内訳は、オーストラリアの原料炭が全体の 14.3%、同じく燃料炭が 47.0%、南アフリカの燃料炭が 26.5%、南米の燃料炭が 12.2%

である。

上述の3社とは異なり、同社はオーストラリアと南アフリカについては、石炭の仕向け先を公表している。それによると、オーストラリアの原料炭は全て輸出され、また、オーストラリアの燃料炭は79.2%、南アフリカの燃料炭は51.3%がそれぞれ輸出されている（2008年。同社の“Annual Report”による）。

（続く）

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>